

株式会社 KOKUSAI ELECTRIC

第**11**期

定時株主総会

2026年6月26日



報告事項





当期の経済情勢

世界経済

■ 緩やかな成長基調

欧州や中東における
地政学リスクの長期化

中国経済
の低迷

新たな輸出規制や
関税政策による
各国貿易摩擦の影響

物価上昇による
消費の下振れ懸念



先行きに対する不透明感が継続

事業の経過及びその成果



当社グループを取り巻く事業環境

半導体デバイス市場

■ 高性能 Logic、DRAM

デバイスの世代交代、
生産規模拡大



設備投資が
高水準で推移

■ NAND

デバイスの世代交代



設備投資が進む

■ 民生電子機器向け、 自動車・産業機器向け

需要回復は緩やか



AI関連とは異なる
需要の動き



今後の事業環境

半導体関連市場

■ 民生電子機器

需要回復・拡大

■ データセンター、グリーントランスフォーメーション

さらなる拡充や投資拡大



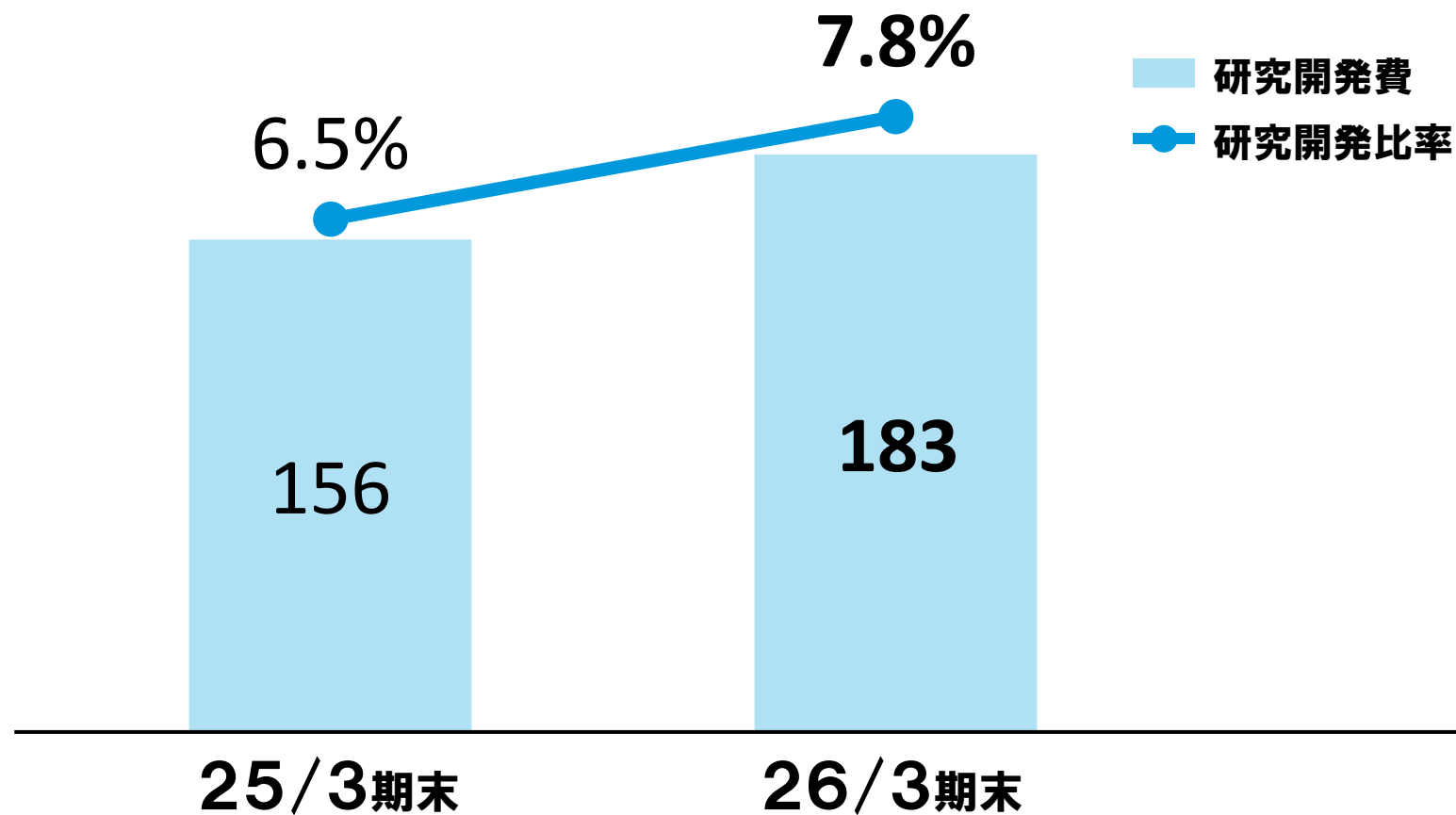
中長期的に大きく成長

(億円)

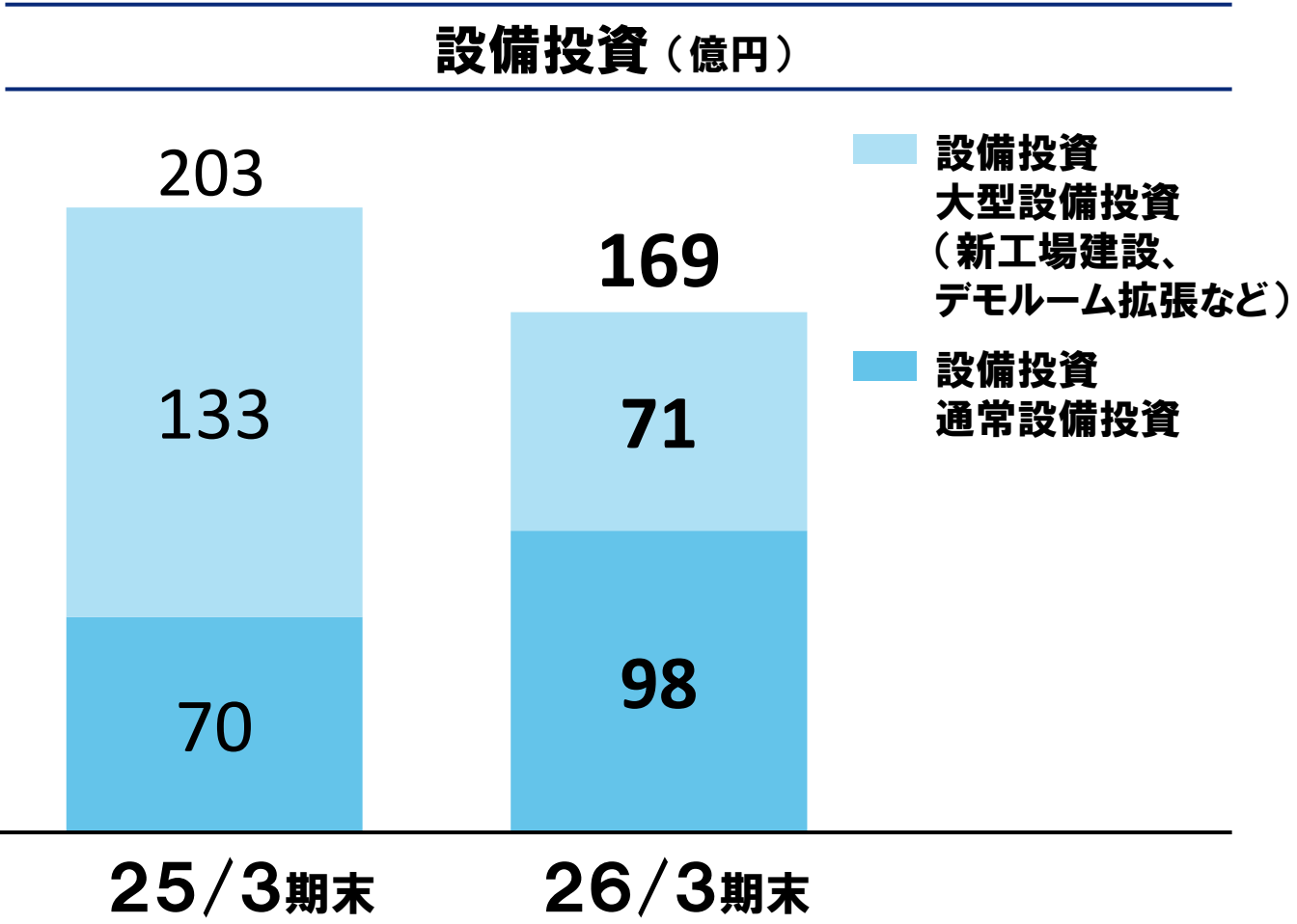
25/3期末			26/3期末	
売上収益	2,389	+32.1%	2,351	△1.6%
営業利益	513	+66.9%	418	△18.5%
税引前利益	508	+70.7%	407	△19.8%
親会社の所有者に帰属する当期利益	360	+60.9%	301	△16.4%



研究開発費（億円）

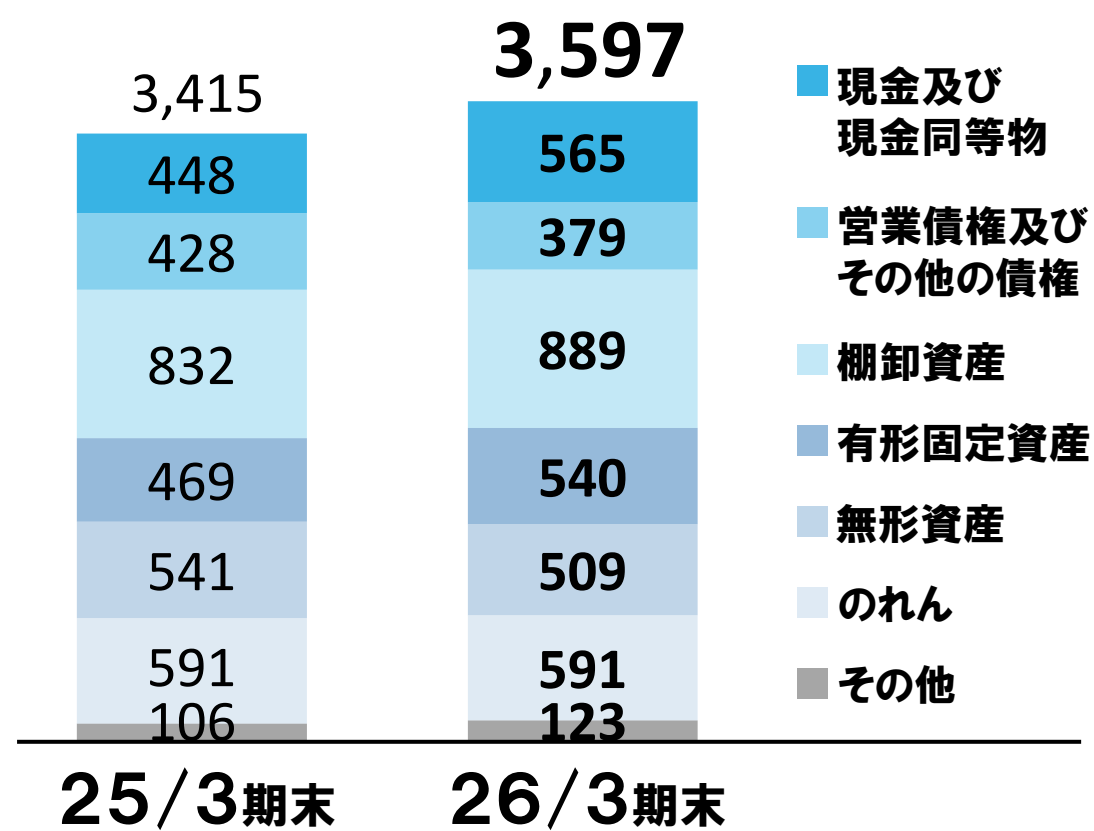


設備投資（億円）

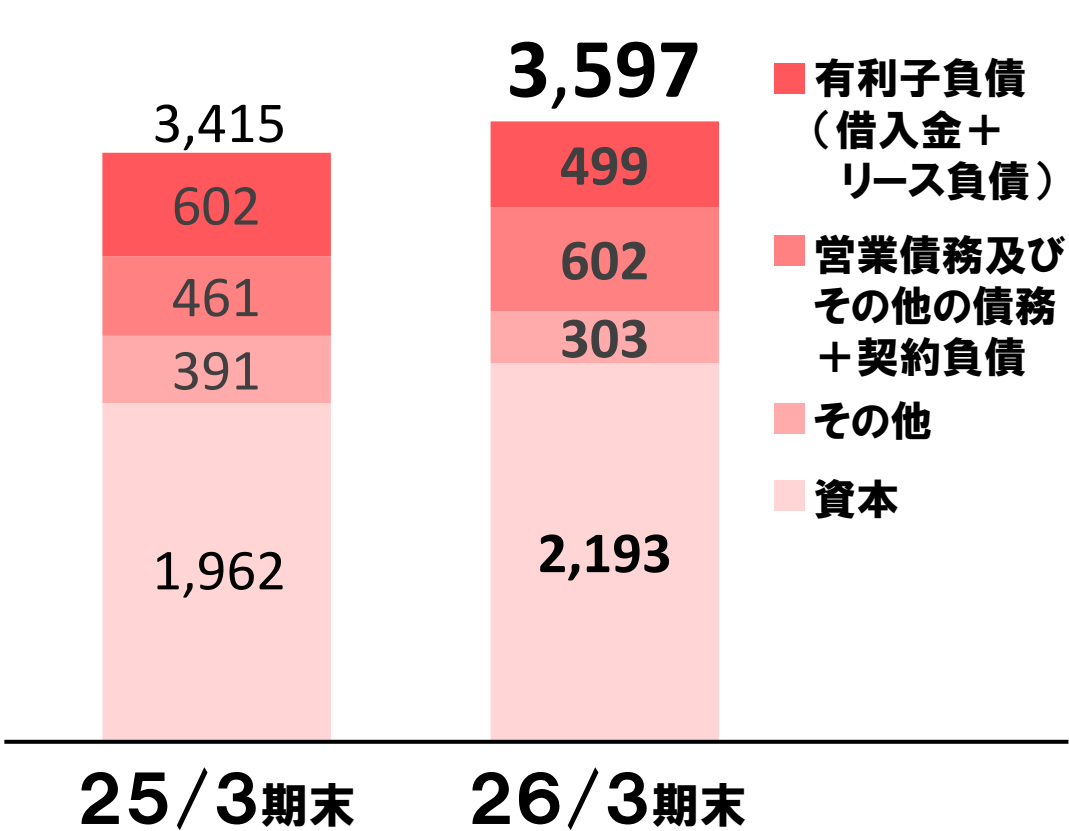


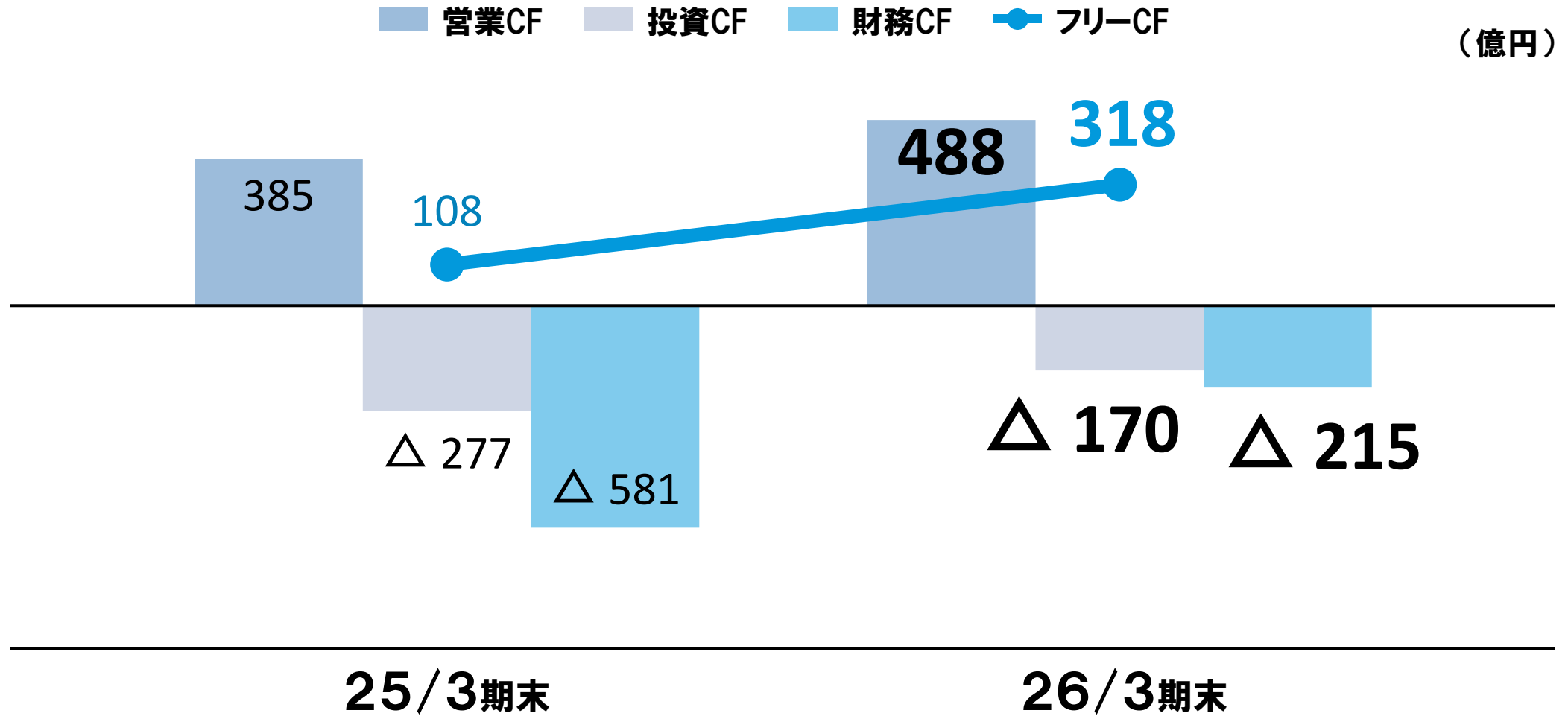
砺波(となみ)事業所 隣接地

資 産（億円）



負 債 ・ 資 本（億円）





2027年3月期連結業績予想



(億円)

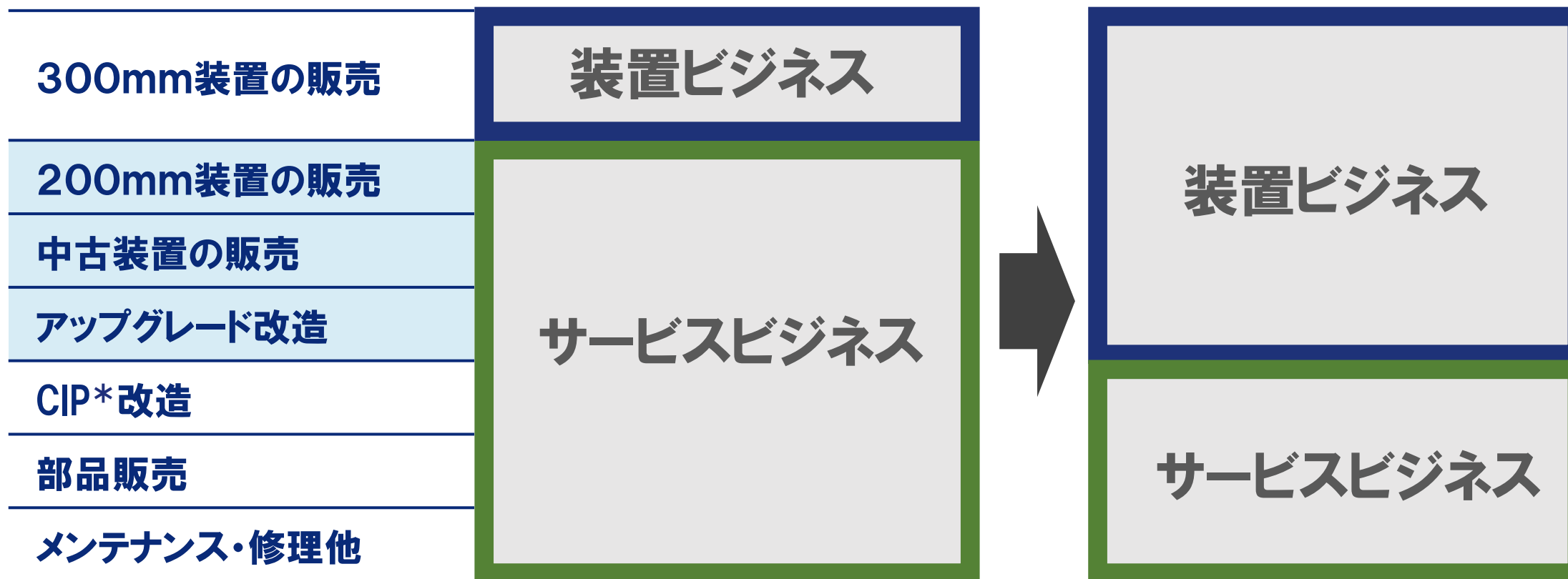
26/3期末			27/3期末(予想)	
売上収益	2,351	△1.6%	2,800	+19.1%
営業利益	418	△18.5%	545	+30.3%
税引前利益	407	△19.8%	534	+31.1%
親会社の所有者に帰属する当期利益	301	△16.4%	388	+28.9%

ビジネス区分の変更について



2026年3月期

2027年3月期



* Continuous Improvement Program

対処すべき課題

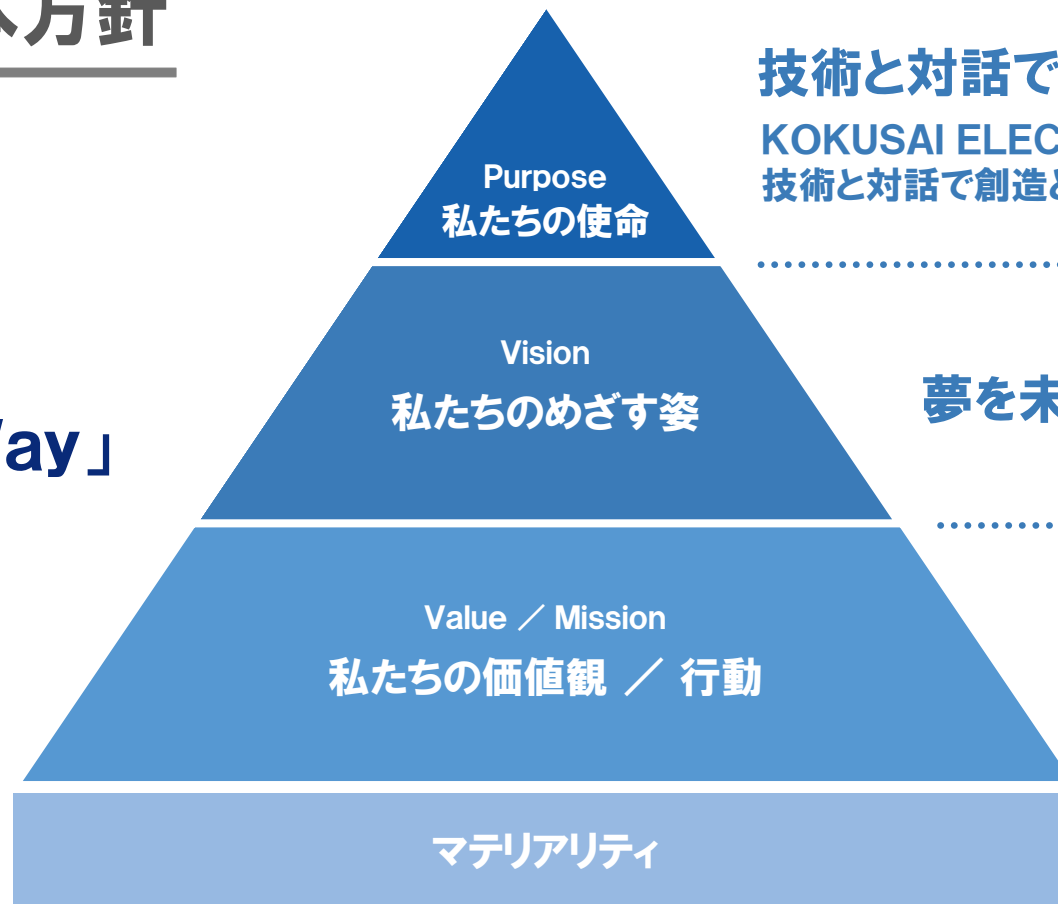




① 経営の基本方針

当社グループ
企業理念

「KOKUSAI
ELECTRIC Way」



技術と対話で未来をつくる

KOKUSAI ELECTRICグループは、
技術と対話で創造と革新が生まれる未来を支えます。

夢を未来につなぐベストパートナー

私たちの技術

- ・ 技術を洗練する
- ・ 技術を創出する
- ・ 技術で挑戦する
- ・ 技術で魅了する

私たちの対話

- ・ 先端技術との対話
- ・ 自然環境との対話
- ・ 社会課題との対話
- ・ 自分自身との対話

持続可能な社会の実現・当社グループの持続的な発展

② 中長期的な経営方針

主な事業内容

装置ビジネス

バッチ装置

バッチ成膜装置

バッチALD^{*1}対応装置

バッチLPCVD対応装置



ミニバッチ成膜装置
TSURUGI-C²® 剣®
シリーズ



ラージバッチ成膜装置
AdvancedAce®
シリーズ

バッチ酸化・拡散・アニール装置

枚葉装置

枚葉プラズマトリートメント装置

枚葉アニール装置



枚葉トリートメント装置
MARORA®



枚葉アニール装置
TANDUO®

アップグレード改造

新規装置の代替として既存装置の
性能や機能を向上させる改造

サービスビジネス

部品販売

メンテナンス・修理

CIP^{*} 改造

^{*} Continuous Improvement Program

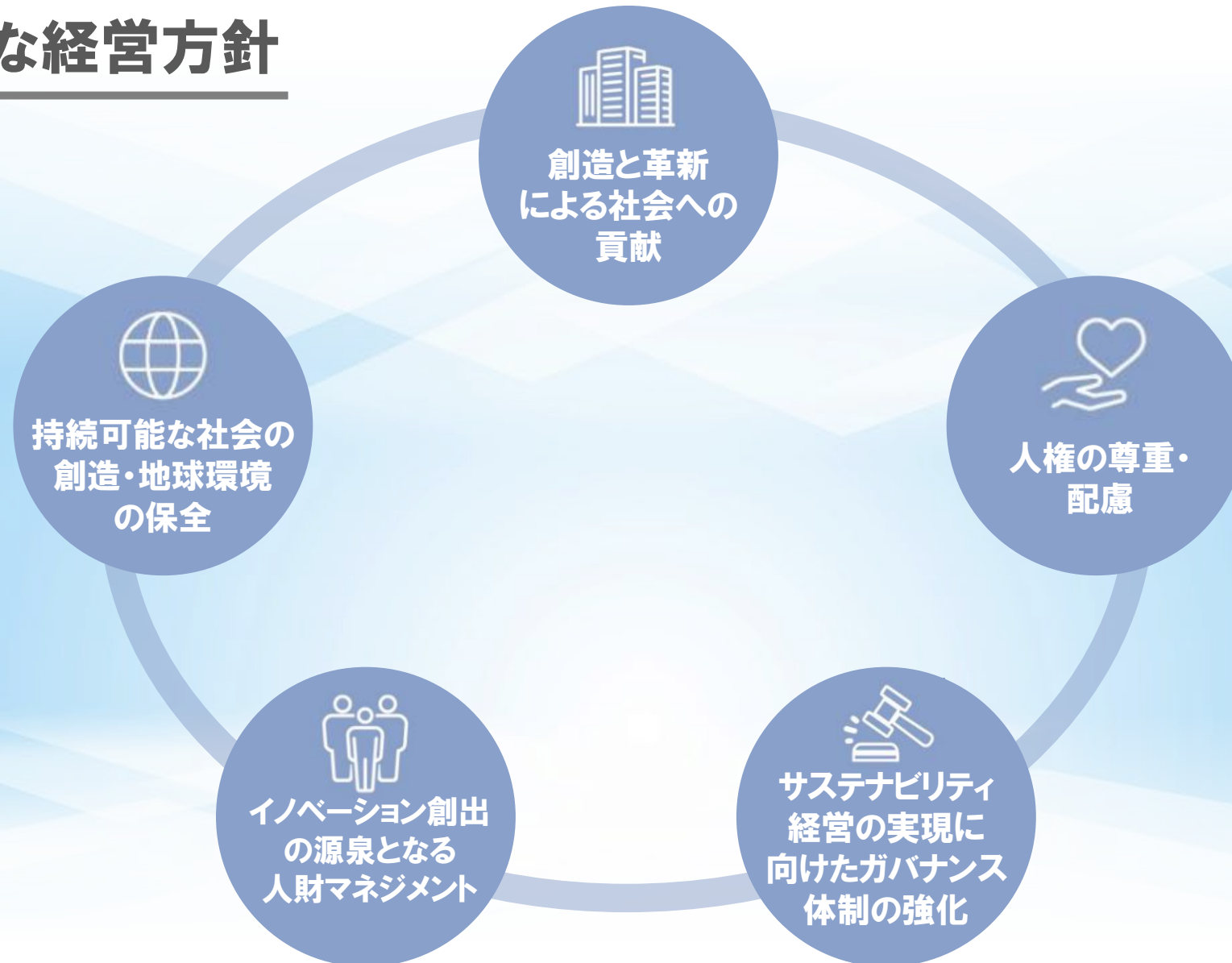
等



KOKUSAI ELECTRIC

^{*}1:当社グループでは、複数のガスをサイクリックに供給する工程を伴い、
原子層レベルで成膜する手法を「ALD」と呼んでいます。

② 中長期的な経営方針



半導体デバイス市場の成長

先端デバイス向け需要の拡大

中長期的に大きく成長

市場の成長を超える
成長を実現



次ページ以降に記載の①～⑤を推進します

① イノベーションによる高付加価値製品の継続的な創出とお客様のニーズを的確に捉えた開発体制の強化

■ お客様の先端デバイス開発スピードへの対応

高付加価値製品の開発をさらに推進



韓国子会社
デモ評価エリア

横浜テクノロジー
センター

米国デモセンター
(2026年12月
竣工予定)

② イノベーションを創出し続ける企業文化の形成と技術と対話を通じたお客様への提案力の強化

■ 先端プラットフォーム・プロセス技術

Logic/Foundry分野及び
DRAM分野への展開

■ 新分野への挑戦を加速

アドバンスドパッケージ分野への
取り組みの強化

コーポレートスローガン

「技術と対話で未来をつくる」

対話を通じてお客様が抱える課題を深く理解し、
技術を通じてその課題に対する解決策を積極的に提案



③ サービスビジネスのさらなる拡大

- 当社製品のライフサイクル全体でお客様のニーズに合わせたサービスを提供

当社グループ全体での
オペレーションの最適化



持続的な成長





④ グループ運営モデルの刷新による経営効率化の実行

■ 当社グループにおける一体運営強化の必要性増大

当社グループ運営モデルの刷新、
地域間連携、手法統一



経営の効率化

デジタルトランスフォーメーションの推進
(生産管理・顧客管理等の
システムの統合等)



営業、設計、調達、生産、
サービス業務の全体最適化



⑤ 多様な人財が活躍できる職場環境づくり

■ 当社グループの持続的な成長・発展

従業員一人一人の多様性を生かす
新たな価値創出機会の提供



オープンな職場環境

意思決定、意思伝達、実行に対する
速度と精度の向上



機動力を高める企業文化

従来の中期目標*1

見直し後の中期目標

達成時期

半導体製造装置市場規模
1,200億ドル以上

2029年3月期まで

売上収益

3,300億円以上

3,300億円以上

装置ビジネス
売上比率

75%程度

80%程度

サービスビジネス
売上比率

25%程度

20%程度

調整後営業利益率*2

30%以上

30%以上

研究開発費
(対売上収益比率)

6%以上

6%以上

ROE(参考)

25%以上

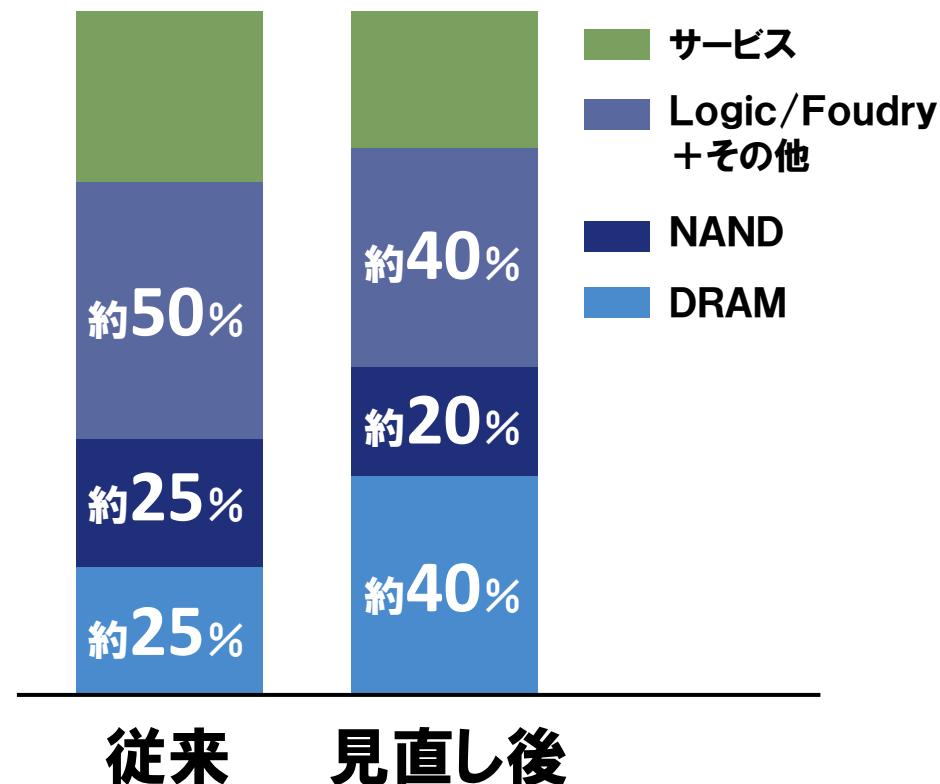
25%以上

ROIC(参考)

23%以上

23%以上

アプリケーション別売上構成比*3



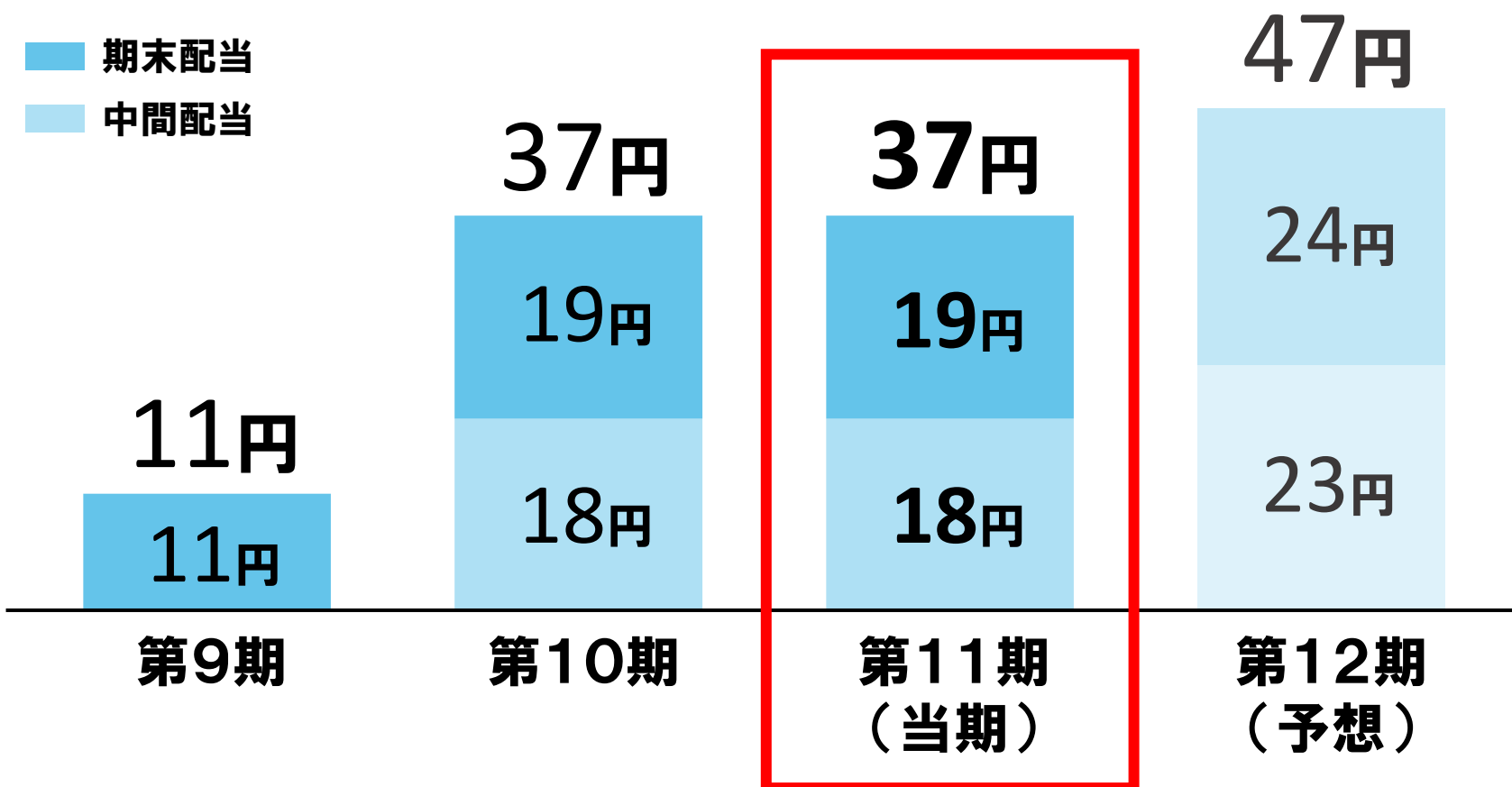
*1: 中長期事業目標に関して足許の環境や進捗状況を踏まえた現時点における中計の着地見込みを中期事業目標と記載

*2: 調整後営業利益率 = 調整後営業利益 ÷ 売上収益

調整後営業利益 = 営業利益(IFRS) - その他の収益 + その他の費用 + 企業結合により識別した無形資産等の償却 + スタンドアローン関連費用
+ 株式報酬費用(業績連動型株式報酬制度に係るものを除く)

*3: 装置売上の比率

1株当たり配当金



現在、2026年7月31日までを取得期間として、自己株式の取得を実施しております。
また、当該期間中に取得した自己株式の全数を、2026年8月31日を消却予定日として、
消却することを決定しております。

株式会社 KOKUSAI ELECTRIC

第**11**期

定時株主総会

2026年6月26日

